

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。  
市教育委員会では、本調査の結果を公表することで、地域の皆様に本市の児童生徒の現状を理解していただき、学校・家庭・地域・行政が連携し、児童生徒の健全な育成を図っていきたいと考えております。今後とも、ご理解とご協力をお願いします。

### 1 実施日・調査対象・調査内容・調査方式について

- (1) 実施日 令和3年5月27日(木)
- (2) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年(市内全小中学校)

#### (3) 調査内容

##### ①教科

小学校第6学年 国語、算数  
中学校第3学年 国語、数学

※ 令和3年度は新型コロナウイルス感染症により、学校教育に多大な影響が生じている状況を踏まえ、例年より1か月後ろ倒し、実施。

※ 中学校 英語は3年に一度実施のため、令和3年度の実施はなし。

##### ②質問紙調査

小学校、中学校とも学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等の調査を実施

## 2 小学校（教科）結果について

### ○令和3年度 教科の平均正答率（％）

区分	国語	算数
白山市 (県差)	70 (-1)	73 (-1)
石川県	71	74
全国	64.7	70.2

- ・国語、算数とも、全国の平均正答率を上回り、県の平均正答率と同程度。

※文科省は、県の平均正答率の小数点以下を四捨五入した整数値で公表。  
市への提供の数値も整数値。

### (参考) 平成31年度（令和元年度） 教科の平均正答率（％）

区分	国語	算数
白山市 (県差)	72 (±0)	72 (±0)
石川県	72	72
全国	63.8	66.6

## 3 中学校（教科）調査結果について

### ○令和3年度 教科の平均正答率（％）

区分	国語	数学
白山市 (県差)	67 (-2)	60 (-3)
石川県	69	63
全国	64.6	57.2

- ・国語は全国の平均正答率を上回り、県の平均正答率と同程度。
- ・数学は、全国の平均正答率を上回るが、県の平均正答率をやや下回る。

### (参考) 平成31年度（令和元年度） 教科の平均正答率（％）

区分	国語	数学	英語
白山市 (県差)	75 (-2)	61 (-4)	55 (-3)
石川県	77	65	58
全国	72.8	59.8	56.0

#### 4 小学校、中学校 質問紙調査について

※質問事項に対し、表中の（○）は、県平均と比べて内容が良いことを示し、（△）は県平均と比べて課題があることを示している。

- (1) 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。」の問いに対し、「1時間以上する」と答えた児童生徒の割合

(%)

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	81.2 △(+4.5)	77.8 (-0.5)
石川県	76.7	78.7
全国	76.2	80.0

小学校は県平均をやや上回り、中学校は県平均並みだった。家庭との連携を図り、生活習慣の改善を促していく必要がある。

平成29年度白山市  
小学校 16.3 (県差+1.6)  
中学校 14.0 (県差-1.1)

- (2) 「家で自分で計画を立てて勉強していますか。(学校の授業の予習や復習を含む)」の問いに対し、「よくしている」と答えた児童生徒の割合

(%)

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	34.0 (-0.4)	17.3 △(-4.4)
石川県	34.4	21.7
全国	31.2	19.4

小学校は県平均並みだが、中学校は県平均をやや下回っている。今後も小学校では引き続き、中学校では一層、家庭学習の定着・充実に力を入れていく必要がある。

平成31年度白山市  
小学校 31.2 (県差-3.8)  
中学校 14.1 (県差-1.4)

- (3) 「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」の問いに対し、「送っていた」「どちらかといえば送っていた」と答えた児童生徒の割合

(%)

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	63.5 △(-3.5)	52.2 △(-1.3)
石川県	67.0	53.5
全国	63.1	48.4

小・中学校ともに、県平均をやや下回っている。休校中の生活習慣の乱れがみられる。家庭との連携を図り、規則正しい生活の立て直しをしていく必要がある。

令和3年度新設

- (4) 「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか。」の問いに対し、「続けることができた」「どちらかといえばできた」と答えた児童生徒の割合

(%)

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	66.1 △(-2.9)	34.6 △(-7.3)
石川県	69.0	41.9
全国	64.6	37.6

小・中学校ともに、県平均を下回っている。

学びに向かう意欲を高められる家庭学習の指導をしていく必要がある。

令和3年度新設

- (5) 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対し、「持っている」と答えた児童生徒の割合

(%)

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	55.5 (-0.6)	35.8 △(-2.8)
石川県	56.1	38.6
全国	60.2	40.5

小・中学校ともに県平均と同程度だが、今後、一層のキャリア教育の充実が求められる。

平成31年度白山市  
小学校 62.3 (県差-1.5)  
中学校 43.3 (県差-0.6)  
平成30年度白山市  
小学校 62.5 (県差-4.8)  
中学校 43.5 (県差-0.2)

- (6) 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」の問いに対し、「30分以上する」と答えた児童生徒の割合

(%)

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	37.9 ○(+2.0)	33.8 ○(+6.5)
石川県	35.9	27.3
全国	37.4	28.9

小・中学校ともに県平均を上回った。日常的に読書をする習慣が定着している児童生徒が多い。

今後も、読書推進の取組を継続する。

平成31年度白山市  
小学校 42.9 (県差+2.7)  
中学校 29.4 (県差+3.9)

## 5 まとめ

### (1) 小学校の教科分析

国語では、目的に応じ必要な情報を見つけながら読んだり、要約したりすること、文中で漢字を正しく使うことについて課題があった。本を読み比べたり、図や資料のある新聞を読んだりする活動を取り上げていくことや、日常的に正しい漢字を意識して使う指導が求められる。

算数では、公式は知っていても、公式の成り立ちを理解したり、解き方を言葉で説明したりすることに課題があった。既習内容を生かして見通しをもつ、内容を関連づける、児童が解き方を説明するという指導をさらに充実させることが求められる。

今後は、教師の授業力向上による学力の向上の取組を各校で継続するとともに、基礎・基本の確実な定着と、学んだことをどう生かすかといった活用力について指導していく必要がある。

### (2) 中学校の教科分析

国語では、条件に合わせて自分の考えを書くことや、相手や場に応じて敬語を適切に使う力に課題がある。普段の授業から他者を意識しながら説得力をもって自分の意見を伝える機会を確保することが必要となる。

数学では、身近な事象を式やグラフを使って数学的に説明する力に課題がある。生徒同士が自らの考えをもとに話し合う活動を充実させる必要がある。

今後は、教師の授業力、指導力の向上のため、教科部会の活性化を図り、指導主事の要請等、外部からの評価、指導を積極的に取り入れていく必要がある。受動的な授業ではなく、生徒が主体となって、対話を通じ、情報を吟味しながら自分の考えを深めていく指導が求められる。

### (3) 家庭の生活習慣・学習習慣等

普段（月曜日から金曜日）の1日当たりにテレビゲームを1時間以上している割合が、小学校では県平均よりやや上回り、中学校では県平均並みである。小・中学校とも保護者と連携し、今後とも、生活習慣の改善を促していく必要がある。新型コロナウイルス感染症で休校していた期間中の規則正しい生活を送っていた割合が、小・中学校ともに県平均よりやや下回り、生活習慣の立て直しが求められる。

家庭での学習については、自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合は、小学校では県平均並みだが、中学校では県平均を下回った。小学校では引き続き、中学校では一層、家庭学習の充実・定着に向けて、保護者と連携しながら取組を進めていく必要がある。

将来の夢や目標を持つ意識については、小・中学校ともに県平均をやや下回っており、キャリア教育の一層の充実が求められる。

### (4) 図書館教育

学校司書を全校配置し、読書環境が整備されていることで、小・中学校とも日常的に読書をする習慣が定着している。

## (5) 今後の学力向上に向けての具体的な取組

### ① 確かな学力を育む授業づくりの推進

- ◎ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
  - ・ 育みたい資質・能力を明確にし、子どもが主体となる授業の計画
  - ・ 子どもがわくわくし、自らなってみてみたい！確かめてみたい！と、学びたくなる導入場面づくり
  - ・ 目的と必要感のある交流場面づくり  
(コロナ禍の中、ICTの活用等、工夫して伝え合う機会を確保する)
  - ・ 「できた!」「わかった!」の声があふれる終末場面づくり
- ◎ 知識・技能の確実な習得のための繰り返し学習の重視
  - ・ できるまでやりきることの重視
  - ・ 検証の場の設定
  - ・ 組織的・継続的個別指導の重視

### ② 学びを支える学習基盤づくりの推進

- ◎ 組織的指導体制の確立
  - ・ 焦点化した共通実践「そろえる・やりきる・確かめる」の推進
  - ・ 教材・教具の共有化「学年で・学校で・年度を超えて」の推進
  - ・ 教師が学びあうことができる環境づくり
  - ・ ベテラン・中堅・若手それぞれが持ち味を発揮できる雰囲気づくり
- ◎ 温かい学級づくり
  - ・ 生徒指導の三機能「自己決定・自己存在感・共感的人間関係」を大切にした学級づくり
- ◎ 家庭学習の充実
  - ・ 授業における家庭学習につなげる働きかけの工夫  
(コロナ禍において、自主自学につなげる指導の充実)

### ③ キャリア教育の充実

- ◎ 将来への目的意識を持たせるキャリア教育
  - ・ 自己の生き方や、地域社会との関わりを考える学習活動の推進
  - ・ 進路、職業に関する体験活動を生かした学習の実践

### ④ 市教育センター研修の充実

- ◎ 授業づくり研修の充実
  - ・ 各教科における授業づくり研修の充実
  - ・ コロナ禍における、有効的なオンラインでの研修を検討中